

受領No. 1643

## 〈延命〉と呼ばれる科学技術の具体的内容とその価値に関する生命倫理学的分析

代表研究者 柏崎 郁子（東京女子医科大学 講師）

### Bioethical Analysis of the Specific Content and Values of Technologies Known as “Life-Prolonging”

Representative Ikuko Kashiwazaki (Junior Associate Professor, Tokyo Women's Medical University)



### 研究概要

本研究の目的は、〈延命〉をめぐる各種の言説における科学技術の具体的内容と、人々の思考の基盤となっている価値を解明することにある。今日、科学技術の進歩によって、かつては死を迎えていた人々のさらなる〈延命〉が可能になったといわれている。ただし〈延命〉という言葉は、科学技術の進歩を歓迎する意味合いではなく、不自然で忌避すべきものであるという意図で用いられることが多くなっている。そのとき、人々が〈延命〉と呼ぶ状態で用いられている科学技術は、具体的にどのような技術のことをさし、それが〈延命〉であるか否かはどのような価値基準によって区別されているのかは明らかにされていない。そこで第一に、人々が〈延命〉と認識する具体的な科学技術の内容をピックアップし、実際の技術提供に用いられる各種デバイス、およびそれを使用するための制度、経済や利便性の観点から現実的な使用に至る現状のシステム構成を調査する。第二に、それらの科学技術について、人々がなぜそれを〈延命〉と認識するのか、とくに「救命」や「治療」との違いに注意しながら、人々の思考の基盤となっている価値を探求し、批判的考察を行う。